

《研究課題名》鼻副鼻腔粘膜における pH 変動が上気道 2 型炎症に及ぼす影響に関する基礎研究

《研究対象者》

滋賀医科大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科において実施した「鼻粘膜のアシドーシスがヒト Th2 型上気道アレルギー炎症に及ぼす影響の検討（整理番号 R2018-106）」の研究にご協力いただいた方

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の上記先行研究（R2018-106）で収集した情報を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究に関するご質問は下記（４）の問い合わせ先へご連絡ください。

（１）研究の概要について

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2025年12月31日

《研究責任者》 滋賀医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 戸嶋 一郎

（２）研究の意義、目的について

《意義》

われわれは予備実験の結果、鼻副鼻腔粘膜のアシドーシスが好酸球気道炎症の増悪に関与していると考えており、そのような粘膜のアシドーシスがヒト 2 型上気道アレルギー炎症であるアレルギー性鼻炎や好酸球性副鼻腔炎の病態に関与することがわかれば、これら難治性疾患の病態解明につながると考えます。また鼻粘膜の pH を調節することで炎症の制御が可能となれば、新規治療につながる可能性もあります。

《目的》

鼻粘膜のアシドーシスがヒト 2 型上気道アレルギー炎症の重症化に関与しているか検討します。

（３）研究の方法について

《研究の内容》

鼻粘膜 pH の群間比較と、アレルギー誘発試験前後の鼻粘膜 pH の変化。鼻粘膜を用いた pH 感知性受容体の発現・局在や好酸球炎症に関わるサイトカインやムチン（IL-5、IL-13、IL-33、IL-25、TSLP、MUC5AC など）の群間比較、喘息の有無との関連を調べる。

《利用し、又は提供する情報の項目》

- ・研究対象者背景：年齢・性別・現病歴・合併症・アレルギーの有無・家族歴（アレルギー疾患の有無など）などカルテから得られる情報
- ・治療薬および併用薬の服薬状況

通知し、又は研究対象者等が容易に知り得る状態に置くための文書

- ・臨床検査：血液生化学検査（RAST、血清総 IgE 値、末梢血好酸球割合、白血球数）、鼻汁中好酸球数、皮内テスト、プリックテスト
- ・その他検査：副鼻腔 CT 検査、鼻粘膜病理検査

《情報を利用する者の範囲》

滋賀医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 戸嶋 一郎

《情報の管理について責任を有する者》

国立大学法人 滋賀医科大学 学長 上本 伸二

（４）本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 戸嶋 一郎

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2111(内線 2261)